

表3 宿題報告一覧

年	総会回	演者	演題
1962 (昭和 37)	51 (札幌)	岡林 篤 藤巻 茂夫 新井 恒人 河瀬 収	感染と免疫 A 感染の免疫病理学的研究 感染と免疫 B 免疫とアレルギー - 膠原病の病理 動脈硬化症 A 動脈硬化症の病理 - 代謝障害からみた成り立ち, とくに初期像について 動脈硬化症 B 弾性線維の態度, 特に微細構造の変化について
1963 (昭和 38)	52 (大阪)	嶋田 博 神部 誠一 家森 武夫 川合 貞夫	肺胞の構造と病理 - 光学顕微鏡並びに電子顕微鏡による研究 新産児の病理 炎症における食細胞の関与とその形態 脳腫瘍の実験的研究
1964 (昭和 39)	53 (仙台)	太田 邦夫 高木 文一	胃癌の発生 細胞傷害の超微形態学
1965 (昭和 40)	54 (長崎)	妹尾佐知丸 宮地 徹	細胞の分化 - 赤芽球の分化を中心として わが国の肝臓 - とくに肝硬変との関係について
1966 (昭和 41)	55 (広島)	諏訪 紀夫 武内 忠男	肺の構造と機能, 特に肺気腫の換気力学について 酸素反応からみたグリコーゲン代謝の形態学的研究
1967 (昭和 42)	56 (名古屋)	佐藤 春郎 林 秀男	癌転移, 腹水腫瘍の実験病理学的研究から 炎症 その発生と抑制の機構について
1968 (昭和 43)	57 (東京)	小島 瑞 草野 信男	リンパ節の細胞病理学的研究 - 特に二次小節を中心として 蛍光抗体法による日本脳炎の研究
1969 (昭和 44)	58 (福岡)	小野江為則 松本武四郎	肝臓の超微構造的病理学 脾腫の病理形態学 - とくにいわゆる B anti 脾を中心として
1970 (昭和 45)	59 (京都)	北村 四郎 大根田玄寿 岡野 錦弥	形態学よりみた炎症のメカニズム 脳出血の病理 - 血管病変を中心として 病理学的表現の客観化, 殊に人体白血病とその周辺について
1971 (昭和 46)	60 (東京)	大高 祐一 花岡 正男	結合組織病の病理 - リウマチを中心として γ M抗体産生機構の免疫病理学的研究 - とくに虫垂との関連について
1972 (昭和 47)	61 (東京)	細川 修治 斎藤 守	不明 不明
1973 (昭和 48)	62 (千葉)	西塚 泰章 影山 圭三 相沢 幹	胸腺機能の実験的研究 - 周生期病理学の立場から 肺腺維症のなりたち 移植と移植免疫
1974 (昭和 49)	63 (名古屋)	山田 明 竹内 正 武田 進	職業性毒ガス中毒の病理解剖学的研究 - 特に呼吸器癌の発生について - 腎内血管攣縮の形態学と腎内血行動態 紫外線DNA損傷と修復に関する細胞病理学的研究
1975 (昭和 50)	64 (高槻)	梶川欽一郎 笹野 伸昭	細胞間マトリックスの病理 副腎皮質内分泌環境の機能病理学
1976 (昭和 51)	65 (仙台)	島峰 徹郎 長与 健夫	慢性骨髄不全の病理 胃癌発生に関する組織学的及び実験的研究

表3 宿題報告一覧 つづき

年	総会回	演者	演題
1977 (昭和52)	66 (岡山)	石川 栄世 田中 健蔵 濱島 義博	腎盂・腎炎の病理 線浴現象の病理学的研究 川崎病
1978 (昭和53)	67 (熊本)	小林 博 那須 毅 米沢 猛	異物化 膜(形成)性脂質異常症 membranous lipodystrophy の病理 脱髄疾患と脱髄機構
1979 (昭和54)	68 (東京)	渡辺陽之輔 小川 勝士	ヒト好中球および白血球細胞の微細構造 アデノウイルス12型誘発腫瘍 - とくに実験脳腫瘍へのア プローチ -
1980 (昭和55)	69 (札幌)	飯島 宗一 菅野 晴夫 塚田 英之	生体防禦機構の器官化 - 脾臓を中心として - 人癌の自然史 ペルオキシゾームの病理学的研究
1981 (昭和56)	70 (東京)	青山 友三 森 亘 藤田 哲哉	ヘルペス群ウイルスによる感染症の病理学的研究 劇症肝疾患 細胞動態からみた胃癌の発生と進展
1982 (昭和57)	71 (東京)	松本 圭史 志方 俊夫 遠城寺宗知	性ホルモン依存性腫瘍 ウイルス性肝炎 - その感染と発症 - 軟部肉腫および肉腫様病変の組織形態学
1983 (昭和58)	72 (大阪)	下里 幸雄 菊地 浩吉	肺癌 - その組織発生, 分化, 予後因子について - リンパ球表面抗原の解析
1984 (昭和59)	73 (東京)	畠山 茂 杉山 武敏 横路謙次郎	ヒト睾丸萎縮の病理 癌と染色体異常 - 実験白血病の研究から - 白血病の発生と進展に関する実験的研究
1985 (昭和60)	74 (東京)	京極 方久 玉置 憲一 奥平 雅彦	免疫病の病理 - 組織傷害と慢性化機構の解析 - ヌードマウス移植人癌の病理 - 担癌個体の病理学への実 験的アプローチ - Opportunistic Fungus Infection の病理
1986 (昭和61)	75 (仙台)	伊東 信行 渡辺 慶一 井川 洋二	膀胱癌 - 発生と進展並びにその修飾 - 脂質過酸化と細胞傷害: その調節機構としてのグルタチ オンペルオキシダーゼの意義 レトロウイルスによる白血病発生の機構: 腫瘍化関連遺 伝子とその標的細胞における発現
1987 (昭和62)	76 (東京)	土山 秀夫 吉永 秀	腫瘍と過形成の病理 - 副腎皮質を場として - 炎症による免疫応答の増幅機構とその意義
1988 (昭和63)	77 (札幌)	林 裕造 中村 恭一 家森 幸男	環境化学物質による発癌の病理 - 癌一次予防の病理学的 基礎 - 大腸癌の構造: 異型度係数から導かれる大腸癌の組織発 生とその発育進展 循環器疾患の予知・予防病理学
1989 (平成元)	78 (京都)	須知 泰山 北村 幸彦	T細胞リンパ腫 - 多様性とその生物学的背景 - マスト細胞. 起源, 分化, 機能
1990 (平成2)	79 (福岡)	北川 知行 竹田 俊男 若狭 治毅	肝癌の発生 老化促進モデルマウス (SAM) の開発 Bリンパ腫 - 組織発生, 増殖および進展

表3 宿題報告一覧 つづき

年	総会回	演者	演題
1991 (平成3)	80 (大阪)	森 道夫 生田 房弘	細胞骨格の機能病理学 - 肝臓を中心として - 脳病巣の修復とアストロサイト
1992 (平成4)	81 (仙台)	田原 榮一 板倉 照好 白井 俊一	ヒト胃癌の発生・増殖・進展 - 分子病理学的アプローチ 病理学における細胞間相互作用 - その分子機構の解析 全身性エリテマトーデスの病理
1993 (平成5)	82 (東京)	細田 泰弘 小西 陽一 高橋 潔	肺高血圧症 - その人体病理と実験病理の一断面 - 膝癌の発生 マクロファージの発生, 分化と機能
1994 (平成6)	83 (京都)	渡辺 英伸 池原 進 石川 隆俊	早期胆嚢癌の病理 難病の病因 DNA修復と発癌
1995 (平成7)	84 (名古屋)	今井 大 片桐 一 岡田 茂	濾胞樹状細胞の形態・機能・病態 HLAと疾患 活性酸素による組織障害と発がん - 鉄依存性腎発がんモデルを中心として -
1996 (平成8)	85 (東京)	日合 弘 廣橋 説雄 町並 陸生	リンパ腫の遺伝的感受性の実験的研究 ヒトがんの多段階発生と組織学的多様性の分子機構 骨・関節腫瘍の病理
1997 (平成9)	86 (札幌)	吉木 敬 矢谷 隆一 遠藤 雄三	ヒトレトロウイルス感染の病理 ヒト前立腺癌の発生と進展 - 地理病理学的・分子病理学的アプローチ IgA腎症の成因
1998 (平成10)	87 (広島)	福島 昭治 秦 順一 森 茂郎	環境因子の発癌リスク - 評価と予防への実験病理学的アプローチ - 胎児性腫瘍の病理 - 細胞分化, 器官形成の分子基盤 - びまん性大細胞型リンパ腫の病理
1999 (平成11)	88	林 良夫 神代 正道 長嶋 和郎	シェーグレン症候群の病理 肝細胞癌の病理; 特に形態発生と進展について ウイルス性脳症の発生機序
2000 (平成12)	89 (大阪)	広川 勝彦 能勢 真人 恒吉 正澄	老化とストレスと免疫機能 膠原病の病像多様性の起源 軟部肉腫の病理
2001 (平成13)	90 (東京)	青笹 克之 名倉 宏 高橋 雅英	慢性炎症を基盤に発生する悪性リンパ腫 消化管粘膜における生体防御機構と粘膜障害 RET癌原遺伝子の病理学
2002 (平成14)	91 (横浜)	立松 正衛 樋野 興夫 岡田 保典	胃癌の発生・進展・修飾要因 癌性化境遇 - 炎症による肝癌と遺伝による人癌に学ぶ - 細胞外マトリックス代謝の病理
2003 (平成15)	92 (福岡)	津田 洋行 長村 義之 居石 克夫	がん遺伝子トランスジェニックラットを用いた発がん研究 下垂体細胞および下垂体腺腫の機能分化の分子機構 - 転写因子を中心として - 血管リモデリングの病理 - 血管内皮細胞の機能からみた病態解析と臨床研究への応用 -

表3 宿題報告一覧 つづき

年	総会回	演者	演題
2004 (平成16)	93 (札幌)	森 秀樹 中沼 安二 筒井 祥博	大腸がんの発生と予防 肝内胆管がんの病理-原発性胆汁性肝硬変(PBC)を中心に- サイトメガロウイルス感染症における神経原発性の発生機序
2005 (平成17)	94 (横浜)	小野江和則 小川 勝洋 山口 朗	T細胞免疫系の成立と生体内役割 実験肝発癌の分子病理-初期変化を中心に- 骨芽細胞の分化調節機構の解析:骨疾患の成因,病態の解析と治療法の開発に向けた基盤研究
2006 (平成18)	95 (東京)	落合 淳志 追手 巍 山本 哲郎	がん微小環境と浸潤・転移機構-臓器特異がん転移機構 解明と治療法開発の試み- 糸球体腎炎:発症・進展そして糸球体硬化 貧食白血球の浸潤諸パターンを担う新規の白血球走化因子について
2007 (平成19)	96 (大阪)	白井 智之 内藤 眞 高松 徹郎	前立腺癌の発生・進展とその予防に関する基礎的研究 マクロファージの分化・機能制御機構と疾患 不整脈源性基質を求めて-バイオフォトニクスを用いた 心臓病理学-
2008 (平成20)	97 (金沢)	安井 弥 佐藤 昇志 岩崎 宏	胃がんの Transcriptome dissection -組織からのシーズ の発見とその診断・治療への展開- ヒトがん免疫制御の分子病理学的基盤 軟部腫瘍の病態-日常の診断から実験的探索へ-
2009 (平成21)	98 (京都)	笹野 公伸 深山 正久 笹栗 靖之	Endocrinology から Intracrinology へ -ヒト乳癌局所でのエストロゲン合成とその作用- 感染症と癌-Epstein Barr ウイルス関連胃癌の病理 ヒスタミンによるコレステロール・胆汁酸代謝調節と動脈硬化への関与
2010 (平成22)	99 (東京)	張ヶ谷健一 米澤 傑 上出 利光	病態解析に向けた細胞-細胞,細胞-基質間相互作用の研究- Mam, CD44, ヒアルロンサンの解析- ムチン:ヒト癌における臨床病理学的意義と遺伝子発現 機構の解明から腫瘍悪性度早期診断システムの構築まで 組織微小環境の内的調節因子,オステオポンチンの病態 病理学
2011 (平成23)	100 (横浜)	岡安 勲 宮園 浩平	潰瘍性大腸炎の発症・持続とその大腸発癌・進展機序: 慢性臓器炎-発癌系のモデルとして がんの浸潤・転移のシグナルネットワーク